

令和6年度 村椿小学校アクションプラン —1—	
重点項目	温かい人間関係づくり
重点課題	<b>挨拶の推進【あったか つばきッズ】</b>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動では、ほとんどの児童が挨拶を返す。しかし、それ以外の場面になると、挨拶をしなくなる児童が多く見られる。</li> <li>・「あったか言葉・あったかアクション」という言葉は浸透している。学校生活の中で、さりげない「あったか言葉・あったかアクション」が見られる一方で、深く考えないで発する「ちくちく言葉」も聞かれることから、児童が意識して実践しているとは言えない。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強調週間を設け、時と場に応じて気持ちのよい挨拶『<b>あ</b>いてを見て <b>い</b>つでも <b>さ</b>きに(自分から) <b>え</b>たえる(場に応じた声の大きさで)』を1日5回以上できる児童の割合が全体の80%以上になることを目指す。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も計画委員会を中心としてあいさつ運動を継続する。また、気持ちのよい挨拶をしている児童を「さわやかあいさつさん」として、昼の放送で紹介することで、全校児童の挨拶に対する取組意欲を高めていきたい。時と場に応じた挨拶を意識できるように『<b>あ</b>いてを見て <b>い</b>つでも <b>さ</b>きに(自分から) <b>え</b>たえる(場に応じた声の大きさで)』を相手に伝わるさわやかな挨拶のポイントとして指導する。また、PTAや地域との連携は有効であると考えてるので、具体的な取組を検討する。</li> <li>・相手を思いやる言葉や行動のよさを意識できるよう、引き続き「あったか言葉の木」に「あったか言葉」や「あったかアクション」を書いた花や葉を貼ったり、それらを紹介したりする。家庭における「あったか言葉」を広める「あったか家族大作戦」にも取り組む。また、人権意識チェック表を活用したセルフチェックを実施することで、児童、教職員共に、全校での人権意識の維持と高揚を図る。</li> <li>・学校だよりや学年だより等で、学校の取組を知らせたり、家庭や地域での挨拶の習慣化を呼びかけたりする。</li> </ul>

令和6年度 村椿小学校アクションプラン —2—	
重点項目	学力向上
重点課題	<b>「よく考える子」の育成【きりっと つばきッズ】</b>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをもつことはできるが、それを表現することを苦手とする児童が多い。また、友達と関わり合い、自分の学びを自己調整していくことにも課題がある。</li> <li>・相手の話をよく聞いている児童が多い。しかし、最後まで聞かずに勝手に話し出したり、よく考えないで発言したりする児童も少なくない。また、話を聞くときの姿勢(相手を見る・背筋を伸ばす等)が身に付いていない様子も見られる。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強調週間を設け、学習中に自分の考えを表すこと(発言、ハンドサイン等)ができる児童の割合が全体の80%以上になることを目指す。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がるにつれ、自分の考えを表すために必要なスキルが確実に身に付いていくように、「つばきッズの学習ルール(下・上学年用)」「目指せ!聞く・話すウルトラ名人」「声のものさし」「ハンドサイン」等の学習ルールに関わる資料を各教室に掲示し、村椿小の学習ルールとして全校で統一して指導する。</li> <li>・まずは「聞くこと」に重点を置く。相手の話を考えながら聞くことで、自分の考えをもつことができ、考えを表すことができる。その際、ハンドサイン等を活用し、児童が考えながら話を聞いているかを細やかに把握する。</li> <li>・玉椿集会等の行事は全校に向けて自分の考えを発信する大切な機会と捉え、一人一人が自信をもって発表できるように学級と家庭で練習を見届けていく。また、「聞くこと」「話すこと」における自己調整ができるように、発表後に振り返りの場をもつ。</li> </ul>

令和6年度 村椿小学校アクションプラン —3—	
重点項目	健康づくり
重点課題	<b>生活習慣づくりの推進【健康 つばきッズ】</b>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健指導や健康観察時の生活習慣チェックの取組により、早寝早起きやメディアコントロール等、望ましい生活習慣についての意識を高めてきた。</li> <li>・給食後の歯みがきについて、各教室で自席に座り3分間取り組むことになっているが、給食当番や居残り給食等で全員一斉に取り組むことが難しく、全員がきちんと歯みがきを行っているかどうかは把握できていない。本校のむし歯に罹患したことのある児童の割合が高めであることは、歯みがきの習慣がきちんと身に付いていないことも原因の1つと考えられる。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強調週間を設け、給食後に3分間しっかりと歯みがきを行うことができる児童の割合が全体の90%以上になることを目指す。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食後の歯みがきの必要性を理解することができるよう、学級活動や保健委員会による集会等で歯と口の健康について学習したり、目当てカードを活用したりして、意識付けを図る。</li> <li>・規則正しい生活習慣、特に歯みがきの習慣が身に付くよう、児童に具体的な取組の仕方や生活習慣を整えることのメリットを指導する。</li> <li>・毎朝の「健康つばきッズ」調査や健康観察等において、振り返りの場を設定する。</li> <li>・結果を基に、よりよい習慣が身に付いている児童やクラスを紹介して賞賛したり、気になる児童に個別に声かけをしたりしながら、日々の指導に生かす。</li> <li>・望ましい生活習慣や「健康つばきッズ」調査の結果について、各種たよりで家庭にも知らせたり、学級懇談会で話題として取り上げたりすることで理解と協力を得る。</li> </ul>

